



冬休みを楽しむ

校長

元来、お正月は「年神様」を自宅にお迎えする行事です。「年神様」はお正月の神様で「正月様」や「歳徳神(としとくじん)」ともいいます。「トシ」は「稔(みのり)」を意味し、五穀豊穡や稲の神様と言われています。

年神様をお迎えし、「依代(よりしろ; 神霊が依りつく対象物)」となるのが「鏡餅」です。鏡餅は、その名の通り、ご神体を表す「鏡」の役割があるお餅というわけです。

鏡餅に年神様が依りつくると、その御魂が鏡餅に宿ると言われており、年神様の御魂が宿った鏡餅を家長が「御年魂=御年玉」として家族に分け与え、それをいただくことにより、新しい年の幸せや健康を願うのが「お年玉」のルーツであると言われています。「玉」は「魂」の意味なんですね。

1月7日は「七草粥」です。元々は中国の風習ですが、日本に伝わると年の初めに若草を摘んで食べ生命力をいただく「若草摘み」の風習や、七種類の穀物でお粥をつくる「七種粥」の風習と結びつき「七草粥」に変化してきた、といわれます。

植物といえば、冬の公園や雑木林散策には落葉樹の葉痕(ようこん)や冬芽を探す楽しみもあります。

葉痕(ようこん)とは、葉っぱが木の枝から落ちた後に、枝に残る傷跡のことです。木の種類によって、円形、三日月形、線状などさまざまな形があり、また斑点の付き方も異なります。葉を落とした後の落葉樹に近づいてみると、枝のいたるところにこの葉痕が付いているのを見ることができるのです。

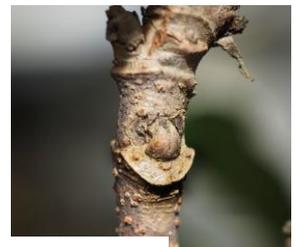
そもそも、なぜ落葉樹は冬になると葉を落とすのか。それは冬眠する動物と同じで、できるだけ栄養や水分を使わないようにして厳しい冬を乗り切るためです。

木の葉には、太陽の光を受けて木が成長するための栄養を作り出す役割(光合成)がありますが、冬は日照時間が短いので十分な栄養を作り出すことができません。そうになると、葉を付けている分、それを維持する栄養が無駄になります。

また、木は葉から水分を放出(蒸散)することで、新しい水分を根から吸い上げて取り込んでいますが、冬は気温が下がって乾燥した地中から水を吸い上げにくくなるため、葉から水分が出ていく一方になってしまいます。

そうしたことから、寒くなって冬が近づくと、木は葉に水や栄養を送らないように、枝と葉の間に離層(りそう)を作ります。離層とは、木からの水や栄養を止める働きをする組織で、離層が働き始めると、葉が枯れ落ちる仕組みになっています。

福音館書店から出ている「ふゆめがっしょうだん」は、葉痕と冬芽の愉快的な写真絵本で、オススメです。



木の妖精 みつけた！



六年生: 落ち葉はきのボランティア

お知らせとお願い

登下校中に不審者を見かけたら

旭市内でも、登下校中に、不審者らしき人と関わり、怖い思いをした児童が、毎月いると報告されています。

学校でも登下校中に不審者を見かけた時には、「いかのおすし」(ついていかない、車にのらない、おおごえをだす、すぐにげる、しらせる)を合い言葉に指導しています。

特に、登下校中に不審者を見かけたらすぐに大人に知らせるように指導していますが、保護者の皆様におかれましても、子どもたちから情報を得た際には、速やかに

(できればその日のうちに)

旭警察署(0479-64-0110)にご一報頂きますようお願いいたします。



なわとびタイム

11月7日から12月14日までなわとびタイムを実施しました。個人で技能を高めるリズム短縄と、みんなで楽しむ大縄八の字飛びに全校で取り組みました。

「二重跳びができるようになったよ」「3重跳びに挑戦している!」「八の字に入るタイミングを六年生が教えてくれた!」と充実した声が聞こえてきました。



ご協力ありがとうございました!



学校公開を11月21日・22日に行いました。多くの保護者の方々においでいただき、子どもたちの日常の頑張る姿を見ていただけたこと、感謝いたします。

また、学校公開の中で、今年は3年ぶりに音楽集会を開催しました。各学年の発表では、音楽の授業で学習したことを活かして美しい音色や歌声を披露しました。全校合唱では体育館いっぱいに元気な歌声が響きました。

ICT 活用のための校内研究



中央小学校では、「情報活用能力を育む指導の工夫～児童がICTを活用する授業の充実を目指して～」をテーマに校内研究を進めています。どんな場面でICTを活用することが効果的かについて全学級で研究授業を行いました。子どもたちの成長のため、今後も日々研鑽に励んでいきます。

ホームページでも、学校だよりを御覧いただけます。

<http://www.edu.city.asahi.chiba.jp/es-asahichuou/ichiran/index.html>